

取り組み紹介書

施設 宝塚せいの里	職場 運営管理課 食事サービス係	氏名 杉浦啓子
--------------	------------------------	------------

【タイトル】

地域における、医療・福祉施設の食形態の内容・名称の統一について

【課題認識】

地域には多くの医療機関、高齢者施設があるが、食形態の内容・名称が統一されておらず、入退院時の文書による情報提供だけでは、その人に適した食形態が分からない事が多く、その都度、相談員や栄養士が足を運び確認をする必要があった。

【原因分析】

- ・食形態の分類数が施設（法人）により異なる事。
- ・食形態の内容「刻み食、やわらか食」への取り組みが施設（法人）によって異なる事。
- ・上記、食形態の名称が施設（法人）によって異なる事。

【改善手法】

- ①.介護保険施設・老人保健施設・病院の栄養士による「宝塚食形態検討会」の立ち上げ。
- ②.各施設の食形態一覧表を作成し「嚥下調整食分類 2013」へ当て嵌めを行う。
- ③.保健所協力のもと、主要病院のホームページに分類表を公開し、多職種が活用できる様にした。その分類表には、宝塚せいの里で取り組んでいる「やわらか食」を食形態のモデルとして掲載する。

【効果測定】

- ①.全ての施設を、同じ食形態、同じ名称にする事は出来なかったが、自施設の食形態が、分類表のどれに該当するか一目で分かるようになった。
- ②.分類表・栄養管理ファイルを統一書式とした事で、入退院時の確実な情報共有が可能となり、利用者の状態把握が正確に行える様になり、職員の業務効率化へと繋がった。

費用対効果で明確な数字は出せないが、利用者体調管理に欠かせない食事を通して質の向上、業務効率化を図り、地域においてその中心的役割を担った。

